

香教組第89回定期大会を開催 「競争と管理」の教育ではなく、子どもたちの 成長と発達を保障する学校を実現させよう

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL(087)867-4797
FAX(087)867-6446
香川県教職員組合
定価1部50円 1月100円
組合員の購読料は組
合費を含む

香教組ホームページ
<http://www.niji.or.jp/home/kakyoso/homepage>

休刊のお知らせ
3月30日号の香川教育は
休刊とさせていただきます。
ご了承ください。

香教組は2月23日に第89回定期大会をサンメッセ香川で開き、およそ80人の代議員・役員等が参加しました。全国的にはいじめ・体罰問題が大きくとりあげられ、また、退職手当削減、国家公務員並みに地方公務員も給与カットなど教職員の生活と権利への攻撃が強まる中で大会でした。代議員からは学校現場での子どもや教職員の困難な状況が報告される一方、困難な中だからこそ職場の期待にこたえる運動が必要であるなどの熱心な討論が行われました。

中尾委員長あいさつ



あいさつする
中尾委員長

中尾委員長は開会のあいさつで退職手当削減問題についてのとりくみを話した後、香教組が1年間とりくんだ成果と課題を述べました。

成果では、たくさん香教組の仲間が増え、青年部の動きができています。寄宿舎指導員採用試験を香教組障害児学校寄宿舎部会が中心になってとりくみ再開させたこと。女性部などの交渉により、来年度小4までの35人以下学級が行われるようになったこと。明成社の高校教科書を採択させなかったこと。香川民研が「育鵬社教科書批判」報告集を発行し、注目されていること。「ハラスメント啓発資料」を全職員に配布させたこと。課題は、退職手当削減に続き、

異独自カットの継続、国家公務員並みの給与カットの地方への波及に対し、たたかっていくこと。競争主義的な教育や教育の管理・統制に対し、対抗していくことを述べました。

最後に、いじめ・体罰問題に触れ、いじめ・体罰をいっそうするため、自主的・民主的な教育を行うっていくこと。保護者・子ども・父母国民がこの問題を真摯に議論し、解決を図っていくことが最も重要と訴えました。

大久保書記長経過報告

続いて大久保書記長が、人事異動のとりくみ、教職員の賃金をめぐる状況、長時間労働に対するとりくみ、少人数学級実現を求める運動など2012年度の運動の経過と総括について報告を行いました。

討論では、各支部や専門部から多くの発言がありました。その後、2013年度の役員選出「大会決議」の採択を行い、大会は成功裏に終了しました。

代議員の発言

未分会訪問

年2回、全部の学校を訪問し、署名行動をしたり、情宣を配布したりしている。今年は退職金問題があり、たくさん署名やカンパに協力いただいた。署名目標は350筆。丸亀市の教職員の過半数となる数だから。訪問している人の年齢層が上がっている。この訪問を若手に引き継いでいくことが今後の課題だ。
(丸亀支部・大野孝之)

高松支部の活動

今年度支部長になり、他支部の署名数やカンパ額が気になりだした。まずは支部執行委員ががんばってやるうと声を上げている。同時に力を入れたのは情宣である。交渉後、5回発行した。やってよかったと思うのは、「支部全員に大切な内容が伝わること」、「次回の交渉に役立つこと」である。署名、カンパの達成集会をして、お互いの学校の情報交換をとり、会話を増やして、支部を盛り上げていきたい。
(高松支部・杉村修)

(発言は裏面に続く)



全教
今谷書記長

いじめを解決する力は、子ども、教育の中にある。全教青年部副部長安部先生は管理的な教育の広がりには優しい先生の力を奪うと言っている。日本弁護士連合会は人権擁護大会で「教育の統制と競争主義的な教育の見直し」を全会一致で採択した。

退職手当削減は将来に渡って全体の賃金削減。若い人に被害甚大。全教が昨年勤務実態調査を行った。中間報告では残業が平均月89時間59分。過労死ラインが80時間。いのち・健康に関わる。いい教育ができるのか。

全教・全教共済からあいさつと報告



全教共済
平尾専務理事

全教自動車保険は教職員家族を守る保険。禁固刑になると職を失う。重大事故が起きたら、代理店・弁護士・全教が禁固刑にならないよう相談する。こんなことができるのは全教自動車保険だけだ。全教共済を全教共済局に位置づけ。組織拡大と一体でとりくむ。教職員賠償責任救済を自主共済化。医療共済の手術見舞金を改正した。公的保険がきく手術には見舞金が出る。若い人が共済に入ってきている。職場で声をかけてほしい。

小黑板

児童に体力をつけさせようと、屋外で体を動かす遊び時間を設ける試みが東京都内の公立小学校で始まる。「外遊びの義務化」だ。最近の子どもたちは、塾通いやゲームの普及などで外で遊ぶ児童が少なくなるとされる。このため休み時間や放課後に教員が主導し、毎日計60分間、外遊びをする。私も若い頃、昼休み、放課後もよく子どもとサッカー、ドッジ、おにごっこなどをして遊んだ。遊びの中で子どもの優しさや勝ち気な性格など大事な面を見て取ることができた。遊びを通して子どもたちとつながりを深めることができた。学力、学力と言ったり、成績主義賃金をよく学び

よく遊び

よく遊ぶ。導入したりして子どもたちと教職員は遊びから遠ざけられた。遊んでいると、ポーンが下がるのではないかと心配で遊べなかった。ところが、体力が落ちた、いじめ問題が起きたなどの対応策として遊びの義務化とはいかないものか。勤務時間内に終わらない仕事が増え、全教が昨年秋に行った勤務実態調査2012の中間報告が出た。月平均90時間の残業。過労死ライン(80時間)をとうに超えている。死ねとも言うのか。残業を減らし、成績主義賃金をなくせば、少しは遊ぼうかなという気持ちにはなると思う。遊びながらポーンのことなど考えたくもない。

青年部のとりくみ

青年部ではエデュカフェを月1回開催しており、庵治の里の草原先生を招いて、子どもたちの相談をしたり、問題解決の方法を学び合ったりしている。若い教職員と経験年数の深い教職員が混ざって、いろいろな話や意見が出てたいへん勉強になっている。今後もつながりを大切にしながらがんばっていききたい。

(高松支部・宮本純子)

三豊支部活動

署名が届いていない分会に電話。署名用紙をなくしてしまったと返事。署名用紙を届ける。署名が返ってくる。ていねいなとりくみが大事。

OBを語る会では、今の管理職や教育長をOBが以前指導したという話が出る。見方が変わる。他の支部でもしたらどうか。私学0時限勤務。職員室で倒れ、心肺停止。どうにか現場復帰している。他の人、体を壊し5年残して退職。何に一生懸命にするか気をつけよう。

(三豊支部・岩田富雄)

卒業式3回

行事が学部ごとに行われる。卒業式は3回ある。管理職の業務が増えた。署名活動にとりくみ、マンモス化を解消したい。

(障支部・鈴木弘恵)

代替が来ない

8月末から病休に入っている先生の代替を探すが見つからず、9月2週目になり、やっとみつかった。50歳代の先生が来られたが、大変多忙だったため、1月7日に倒れ、休んでしまうことになった。今は6時間講師を8時間講師に切り替えて対応している。短期間で担任が次々変わったため、子どもたちは落ち着かなかった。

(高松支部・林康子)

3学期制・県学習状況調査

3学期制に戻ったさぬき市の現状は始業式後も普通授業をしている。1年生の午前学習がなくなった。また、懇談会が長期休業中になったのに、サマースクールも依然と変わらず行うなど多忙化に拍車がかかった。行事を見直し、なぜ戻すのか説明を行うべきだ。

(大川支部・田村実)

子どもの教育をめぐる問題

教育相談担当として、不登校生やその保護者、担任と関わっている。本校にはスクールカウンセラーが二名、スクールソーシャルワーカーが一名配属されている。

いずれも一度赴任すればその中で何年間も継続してケースに関わらないと成果は見えてこない職種である。しかし、毎年のように人事を替えられ、腰を据えた取りくみができていない実態がある。また、スクールソーシャルワーカーにおいて、配属しておけばよいというものではなく、現場で戦力になるような人材づくりが必要だと思う。

(高松支部・杉村智子)

教室不足

児童生徒が増え、教室が不足している。幼稚部は東校舎(元保育専門学校)を使っている。運動場を潰して校舎を建てている。工事が気になって、急に走り出す子もいる。

(障支部・武智洋子)

3つの問題

高松支部の全員集会、支部集会で職場の問題が3つ出た。給食場のセンター化

3学期制の問題
クラウドの問題
現場の意見を聞かずに決まってしまう。交渉の中で、現場の声をしっかり届けたい。

(高松支部・平賀敦郎)

小4 35人学級

小4の35人学級が実現し、明るい見通しができた。県教委も誇らしく言っていた。立場を超えて必要。

(女性部・中尾美方子)

寄宿舎指導員採用実現

「寄宿舎教育の充実・発展を求める会」を発足し、全国に呼びかけて署名活動にとりくんだ。9年ぶりに2名の正規採用が実現した。

(障支部・真鍋真由美)

若い人を育てる

青年、新組合員を育てようと、教育実践や職場活動に力を入れている。

若い人が一人になったとき、活動ができるか心配だ。離れた人へいかに声をかけるか、組合全体の課題だ。エデュカフェは組織・若い人を育てる。ぜひ、声かけを！

(高松支部・濱田里美)

青年部の活動

11年度末に「先生とたまごの学校」で庵治の里・草原先生の講座からスタートし、連続講座になった。職場の悩みを語れる会にしていききたい。

全国青年学習交流集会(岡山大会)に4名が参加した。遊びの会も含めて、青年部員の横のつながりを広げてほしい。

(青年部・田中和美)

民研

毎月例会を開き、今年度は育鵬社教科書問題について報告書を作成した。ぜひ一読を。民研だよりも紹介している。教科書の問題点、採用の経緯について、問題意識をもってほしい。

民研のブログも作った。民研宛のメルアドもある。来年度は学習状況調査について研究をすすめる。メールにて情報提供をしてほしい。

(高松支部・櫛橋秀晃)

教員研修

「自主研修」という名の強制研修をおこなっている学校がある。しかも早朝から子どもたちが登校してくるまでの時間帯だと聞く。なぜ校内研修に位置づけず、姑息な手段を使うのだろうか。また、誰が何のためにこのような研修方法を提案しているのか。私たちは注視する必要がある。

(高松支部・和爾祥枝)

冬のヒマワリ・初任研

ひまわり学校に総勢9名の参加があった。これが卒業旅行という4年連続参加の学生もいた。特別支援学校のマンモス化の説明し、署名の協力を保護者に呼びかけた。拍手をもらい、感激した。

初任研途中で退職者が2年連続出ている。上から押しつけ、型にはまる教師の育成など県の意図がうかがえる。職場でふるい落とされるような初任研ではあってはならない。

(障支部・谷本守)

小中一貫校

勤務時間が1.2倍。職員会は2回(小中ごとと全体) 中学生が落ち着いた。小学時代の担任がいることによさ。反面、小学生の荒れが大きい。6年生がのびのびできない。

(高松支部・井上泉)



香教組第89回定期大会のようす サンメッセ香川

香教組2013年度役員体制

- 委員長 大野 孝之
- 副委員長 安藤 康司
- 副委員長 大久保和彦
- 書記長 井上 泉
- 書記次長 石川 謹章
- 会計長 吉田 智子
- 執行委員 平尾早都子
- 執行委員 石川加代子
- 執行委員 濱田 里美
- 執行委員 鈴木 弘恵
- 執行委員 平尾 行敏
- 特別執行委員